埼玉学園大学・川口短期大学　機関リポジトリ

「おしりたんてい」人気を考える：今日の「読書」指導に関する一考察

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-03-27 キーワード (Ja): 読書指導, 探偵小説, 読書へのアニマシオン, 児童文学 キーワード (En): reading instruction, detective story, animacion, children's literature 作成者: 佐々木, 美和 メールアドレス: 所属:
URL	https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/2000046

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.

「おしりたんてい」人気を考える
── 今日の「読書」指導に関する一考察 ──

佐々木　美　和

1　はじめに

出版不況といわれて久しい。

2019 年の紙媒体による書籍・雑誌の推定販売金額（出版科学研究所調べ）は，15 年連続の減少で 1 兆 2360 億円であった。そうした中でも児童書の売り上げは堅調であるという。中でも「おしりたんてい」シリーズ（ポプラ社）は子どもの圧倒的な支持を集めており，同年 4 月に出版された『おしりたんてい　かいとうと　ねらわれた　はなよめ』（「おしりたんていファイル」(8) は初版で 50 万部を売り上げた。当時，既に同シリーズは，絵本が 7 作，読み物が 10 作，テレビアニメーションのコミック 2 作が出版されており，その累計は 700 万部を超えたとされる[(1)]。また「おしりたんてい」に限らず，近年では絵本や読み物とは異なる“子ども向け”の書籍が話題を集めており，親しみやすい絵と言葉で法律を解説する『こども六法』（山崎聡一郎著，弘文堂，2018 年）や「ざんねんないきもの図鑑」シリーズ（今泉忠明監修，高橋書店，現在 8 巻既刊）などはその筆頭である。

本稿では，「おしりたんてい」人気を支える背景の一つである「読書」教育活動についての考察を踏まえて，児童書の中でもなぜ「おしりたんてい」に人気が集中するのかを，その作品構成から読み解いていきたい。テキスト分析による論考は別稿としたい。

2　子どもの「読書」の現況

2023 年の夏季休暇期間に，居住自治体にある公立図書館（25 館，移動図書館を除く）で「おしりたんてい」の本を何か 1 冊でも良いから借り出そうと Web サイトで検索すると，同シリーズすべて貸出中の表示が出た。話題の書籍であれば分館ごとに 1 冊ずつは所蔵されていると聞いていたが，このようなことは「ハリーポッター」ブーム以来である。これは我が市に限ったことではないようで，富山県砺波市の公立図書館（3 館）が 2022 年に行った「“こどもの本”大投票」の

第１位も「おしりたんてい」であった[(2)]。

紙媒体の書籍を読む，所謂「読書」を伴う自習活動は小学生の「夏休みの宿題」の定番であるが，期間を区切らず日々の学校生活の中で本に親しむ時間や機会を児童や生徒に与える施策が教育の現場で続けられている。「朝の 10 分間読書」等と名称はさまざまだが，公立私立を問わず多くの小中学校で実施され，読書活動の励行に努めている。

読書教育の必要性を唱えた教育学者の滑川道夫（1906-1992）によると，日本の国語教育はその端緒である明治期より教科書教材をどのように“読む”かという限定的な指導を続けてきた，という。開国後の近代化や工業化によって，明治期の日本は印刷技術が発達し出版活動が盛んになり，市井に書籍や雑誌が流通するようになった。学校制度の整備に伴う購買層の就学率の向上によって，出版業界は益々盛況を呈した。1880 年代後半より，子ども向けの書籍や雑誌も刊行されるようになり，教科書以外の本を読む層である“子ども読者”が誕生する。だが，明治期の公教育は教室内で教科書中心に展開される読解指導を主として，課外の読書行為には目を向けてこなかった。

続く大正期には，自由教育が展開する過程で「赤い鳥」や「金の船」といった児童雑誌刊行の流行に示されるように児童文学自体の近代化が興った。多くの詩人や文学者，教育者が童話や童謡の筆を執り，「副読本」や「課外読本」と呼ばれる教科書以外の読み物が人気を博すようになった。こうした児童文学／児童出版物への社会的関心に誘発されて，児童図書館設置の機運が高まり，まだ少数ではあるが図書室を設ける小学校も出てきた。

昭和期に入ると，“生活綴方教育”といった作文の指導が派生するようになり，学級文庫を設置する等，児童向け書籍を学校教育に取り入れる研究や取り組みが散見されるようになり，読書指導に熱心な教員もごく少数だが存在していた，とされる。だが，第二次世界大戦期の言論統制の強化に従い，当然ながら児童書籍への干渉も進み，皇国主義を高揚する内容の読書指導へと変質し強制されるようになる。戦後においても，教科書読解を軸とする国語教育は堅持され，放課後も子どもは，塾や予備校に場所を変えて，受験競争に勝利するための「読解学習」を強いられた。こうした教育の変容により，日本の国語教育の「読解指導と読書指導との分化が進行し」[(3)] た，と滑川は国語教育史を概括する。

その上で滑川は，「読解」と「読書」を一体として行う“読解読書指導”の必要性を唱える。「読

解」は“読むこと”の機能的側面であり，他方「読書」は“読むこと”の行動的側面であるとする。そして,「読むこと（Reading)」は「読書」行為と「読解」機能が一体化したものであり，子ども（児童）の「読む力」を考える上で,「読解力と読書力とを区別することはでき」ず,「一つの力として把握するしかない」[4] と示す。

> 読書は行為であり，行動である。文字を認知し，語文を文脈のなかにたどり，全体の意味を受けとめながら，認識をふかめていく「行動」である。
>
> 読解は機能である。読書という行為を可能にする「よみ」「とく」一つのはたらきである。そのはたらき（機能）に支持されて,「読書行動」が成立する。
>
> 「読むこと」を，行動の面から見ると「読書」となり，機能の面から見ると「読解」となるのである。したがって，本質は一つである[5]。（傍点ママ）

滑川は，国語科教育において音読の一様である「朗読」が読解・読書指導において重要であると説いた。朗読には，それを読む子どもの教材（読み物）の読解過程や結果が表れる，とした。この「声に出して読む」読書指導については，後継する多くの教育学者の言及もあるが，国語教育の指導法ではなく子ども観と児童文学に関心を有する者としては，下記の記載に有意性を感じる。

> 読書以外の基本的生活習慣も，幼児期に形成の基礎がつくられるように，読書の習慣も幼児期においてその基礎がつくられ，児童期・少年少女期に発展していく可能性をもつ。満一四歳までに読書習慣を身に着けるならば，ほどんど生涯にわたる習慣として生かされる。その時期をこえると，困難度が高くなる[6]。

滑川が 1970 年段階で危惧した“読書習慣”未獲得の弊害は，2000 年代に入って可視化された。2000 年より「学力」の捉え方が国際比較を通じて行われるようになり，日本の国語教育の課題が明らかとなった。OECD（経済協力開発機構）加盟国[7] を主な調査対象とする「PISA（国際学力到達度テスト)」である。読解力，数学的リテラシー，科学的リテラシーの 3 分野に関する設問がコンピュータを介してデジタルテキストで出題され，義務教育を修了した時点の児童（日本では高等学校 1 年生）が解答し，国の学力水準を測定する。この学力とは，義務教育期間（小中学校）で学んだ学修内容（知識）を実生活の場面でどの程度応用し活用できるか，その習熟度を意味する。

国立教育政策研究所（2019）による PISA2018 の結果報告書[8] には，PISA が測定する「読解

力」とは「自らの目標を達成し，自らの知識と可能性を発達させ，社会に参加するために，テキストを理解し，利用し，評価し，熟考し，これに取り組むこと」であるとされ，教科書の文言を精緻に読み解く日本の国語教育での「読解」とは異なるものであり，「PISA 型読解力」という新たな呼称も登場した。PISA が測定する読解能力は次の 3 項目である。

①情報を探し出す…テキストの中の情報にアクセスし，取り出す
関連するテキストを検索し，選び出す
②理解する…字句の意味を理解する
統合し，推論を創出する
③評価し，熟考する…質と信憑性を評価する
内容と形式について熟考する
矛盾を見つけ対処する

PISA2018 の「読解力」調査の結果，日本は加盟国 37 カ国中 11 位で「前回（PISA2015）より平均得点・順位が統計的に有意に低下」との評価になった。数学的リテラシーが 1 位，科学的リテラシーが 2 位であることを考えると，「読解力」の低下には学校教育以外に何か根本的な原因があると推察する。解答分析では，テキストから情報を探し出す問題やテキストの質や信憑性を評価する問題への正答率が低く，自由記述形式の出題において根拠を示して説明する解答に難がある点に課題があるとの記載がある。以前の PISA の結果報告では，日本の自由記述問題への白紙回答の多さも問題視された。

こうした「読解力」の習熟度低下の一方で，読書活動を肯定的に捉える生徒の割合は比して高く，「大好きな趣味の一つ」との回答率は 45.2% で前回調査（PISA2015）より 3.2 ポイント増えた。この“読書”には，多様なジャンルや媒体が含まれ，コミック（マンガ）やフィクション（小説，物語）は OECD 平均に比べて極端に高く，一方でノンフィクション（伝記，ルポルタージュ）は極端に低いことも明らかとなった。その上で報告書は，ジャンルを問わずに「よく読む生徒の読解力の得点が高い」とも結論づけている。

“趣味”の捉え方は，個人差も大きく幅も広い。実際に子どもたちが日々どの程度の「読書」活動をしているのかを調べたく，PISA2018 の調査対象であった本学本学科の学生に向けて，2021 年秋にアンケート調査を実施し分析した[(9)]。

結果，「朝の 10 分間読書」を代表とする読書活動は小学校や中学校の義務教育期間には盛んに実践されているが，高等学校では逆転現象が起こり，実施しないとの回答の方が実施したとの回

答を上回る。また，その具体的な活動内容としては「朝の 10 分間読書」を筆頭に，教員による読み聞かせ，ブックトークなどもあり，小学校では「伝え合う力」の醸成を目した読書郵便や本の“帯”や宣伝風ポスターの作成など，多様な取り組みが挙げられた。教育現場において，「読む機会」は児童生徒へ平等に提供されている。しかしながら，「読む機会」を自分で増やすといった「読書の習慣」の獲得には至らない。また，齋藤（2002）が言うように，読書好きと「読書力」があるには，大きな差異がある[10]。読書の有益性を理解しつつも，習慣化できずに大学進学した学生が多いのが実情である。

3　新しい読書指導――「読書へのアニマシオン」

「読む力」――「読書力」と「読解力」を獲得するには時間がかかる。読み物や活字に触れる早い段階から，読む行為の楽しみや面白みを伝え，読書活動を習慣化させる取り組みが求められる。

この読書活動の習慣化（継続化）の必要性を 1970 年代にいち早く訴え，「読書へのアニマシオン」という読書活動を提唱したのが，スペインの批評家で教育活動家であるマリア・モンセラット・サルトである。本を読む機会やきっかけを与えるだけではなく，子ども自身で本や活字から発見する力を引き出し，それを内面化していくよう積極的に「教育」[11] する。

> 子ども自身は，読むための潜在能力を秘めていますが，その力は何もしなければ眠ったままです。それを伸ばすには引き出さなければなりません[12]。

その手法は「創造的な遊びの形」を取り，単なる意見交換ではなく謎解きのような要素が含まれる。そして習慣化において何より重要な点は，幼児期から十代後半までの長いスパンでこの教育活動を継続することにあると唱え，実践している。

この活動は，集団による「読書会」の形態を持つ。「読書が好きになることは，読書へのアニマシオンの第一の目的では」[13] ないとし，学校の授業といった「学習の場／機会」ではなく，課外活動的な性格を有す“自由な読書”を目指す。現場には必ず，サルト主宰の講習会に参加し「読書へのアニマシオン」への十分な知見を持つ仲介者（アニマドール）が置かれる。なぜなら，「読書は，たいへんきつい知的トレーニングであり，良い読み手となるための励ましや方向づけがなければ，なかなか一人では実行でき」[14] ないからだ。そして仲介者は，事前に計画し入念な準備をして活動に臨む。クイズや間違い探しといった 75 もの“作戦”があり，使用するテキスト（絵本や児童書）と対象年齢の双方に合致した“作戦”を選び展開を練ることになる。

欧米では，有志の者が教育現場に限らず互いに本を事前に読んで集い，内容への解釈や感想を

語り合う「読書会」の文化が根づいている。サルトの「読書へのアニマシオン」は，謂わば“子ども版読書会”である。参加する子どもたちにも基本的に，事前に絵本や児童書を読んでくることが求められる。子どもたちはこの活動への自由参加を通じて独自の「読書のスキーマ」をつくり出し，読んだ物事を内面化し，思考力を鍛え，生きるのに役立つ判断力や批判力を培う。その手助けが，この新しい読書指導活動のねらいである。

翻って日本の教育者である私たちは，どうであろうか。主に国語科の授業を通じて「読み解き方」を指導し，読書活動時間を設定して読む機会を平等に与えているが，子どもの「読む力」を引き出す積極的な活動はしていないのではないだろうか。

サルトの新しい読書教育アプローチは日本で 2002 年に紹介され，翌年以降，関連本や実践報告の論文等が次々と著された。その何冊かを手にしながら，日本における「読書へのアニマシオン」活動の困難さを痛感した。サルトの原著が表題に「作戦」と冠して具体的な教材（絵本や児童書）の書名を示さないのに対して，日本では「新しい読書教育の方法」のノウハウ本として，教材（テキスト）の書誌情報だけでなくクイズの出題案から子どもとの想定問答（会話でのやり取り）まで掲載されている。そこには，現場の教員や保育者が簡便に取り組めるようにとする著者の意図と配慮が垣間見える。また，PISA2006 で明示された「読解力」の低下（OECD 加盟国順位 12 位）を踏まえて，欧米式の「集団読書」の必要性を説く目的でサルトの手法を紹介する文献もある[15]。

> アニマシオンは，読書への誘いです。遊びごころで，友だちと，一つの本を楽しもうという協同読書です。本の世界をおもしろそうだなあとおもってくれれば成功です。ちょっとした準備で，気軽にできるゲームから入ってみましょう[16]。（下線佐々木）

> 読書のアニマシオンは，どんな子どもでも読書好きにし，読んだ後で自分の意見を言い，話し合って読みを深め合うコミュニケーションの力を育てる最適の方法だと思います[17]。（下線佐々木）

> （注　本来の「読書へのアニマシオン」の方法は）簡単ではありません。そこで私は絵本が 1 冊あれば，だれでもどこでも簡単に実践できる方法のみを紹介します。（中略）この本で紹介した本は，すべて私が実際にアニマシオンをやってうまくいった絵本ばかりです[18]。（括弧内注記と下線佐々木）

この「集団読書」の活動は，日本ではあまり広がりを見せていない。アプローチは大変魅力的で興味深いが，実際に行うとなるとさまざまな困難が想定される。課外活動で果たして子どもた

ちが主体的に参加するだろうか，長期的なスパンで継続して活動することが可能だろうか，教材を深く探究した上で計画を立て準備をする仲介役（アニマドール）を多忙な教育現場で担える人材はいるのだろうか。「読書離れ」は何も，子どもだけの現象ではない。仲介役の児童文学への探究活動を第一に掲げるサルトの読書指導の方法は，今日の日本で活用することは難しいだろう。

4 「おしりたんてい」――「個」の読書へのアニマシオン

齋藤孝（1960-）は著書『読書力』において，「児童書は離乳食」[19] であるから読解力や読書力を鍛えるためには，中学高等学校の就学期に文庫や新書などへ読書対象を移行する必要があり，そのように教員をはじめ周囲の大人たちが働きかける必要があると説く。読書活動の習慣化には，読むテキストのレベルだけではなく，読む行為の変容も不可欠である。幼児教育および児童教育の視座で換言すると，子どもたちが「読み聞かせ」の受動から「読み解き」の能動へ移行すること，つまり自分で読む「個の読書」の習慣が必要であると考える。

「読み聞かせ」から「読み解き」の過渡期の読み物として，「おしりたんてい」シリーズの作品群は位置づけられる。表に示したように，シリーズは絵本から開始する。

著作者であるトロルとは，田中陽子（作話）と深澤将秀（絵）のコンビ作家であり，2018 年の雑誌インタビュー記事に，2011 年に iPad の専用アプリとして登場し，その後アプリ開発会社より「子供向けの知育を兼ねた本」の創作を持ちかけられ，難産の末に絵本出版に至る経緯が紹介されていた[20]。

ポプラ社といえば，昨年（2022 年）35 周年を迎えた大人気絵本シリーズ「かいけつゾロリ」（原ゆたか）の出版社である。ゾロリの表紙は並べると，登場キャラクターが出現する「隠し絵」になっているのだが，「おしりたんてい」は本の隅々にまで――表紙カバーの裏面にまで――余白なく，謎解き問題が散りばめられている。子どもに大人気の児童書シリーズが同じ出版社から出ているのも偶然ではないのだろう。それは，編集側の次の言葉からも読みとれる。

> おしりたんていの最大の武器は，やはりその見た目のインパクトと，親しみやすさだと思います。しかし，本当の魅力は，本としての面白いことだと思っています。本を読むきっかけというのは，読者一人一人によって違うと思います。でも，おしりたんていの読者の皆さんには，おしりたんていを通じて，本を読む面白さ，ミステリ小説の面白さ，わからなかったことを知る面白さを体験してもらえたらと思って編集しています[21]。

起承転結が明瞭で勧善懲悪の世界観に裏打ちされ，怪盗（かいとう U）を筆頭にシリーズに登

表 「おしりたんてい」シリーズ一覧

※ 2023 年 9 月 20 日現在

タイトル（媒体）	初版年
おしりたんてい（絵本 1）	2012 年 10 月
おしりたんてい　プップッ　レインボーダイヤを　さがせ！（絵本 2）	2013 年 9 月
おしりたんてい　プップッ　ちいさな　しょちょうの　だいピンチ⁉（絵本 3）	2014 年 3 月
おしりたんてい　プップッ　きえた　おべんとうのなぞ！（絵本 4）	2014 年 10 月
おしりたんてい　むらさきふじんの　あんごうじけん（児童書 1）	2015 年 8 月
おしりたんてい　プップッ　おおどろぼう　あらわる！（絵本 5）	2015 年 10 月
おしりたんてい　やみよに　きえる　きょじん（児童書 2）	2016 年 3 月
おしりたんてい　ふめつの　せっとうだん（児童書 3）	2016 年 8 月
おしりたんてい　プップッ　おしりたんていが　ふたりいる⁉（絵本 6）	2016 年 12 月
おしりたんてい　かいとう　VS　たんてい（児童書 4）	2017 年 3 月
おしりたんてい　いせきからの　SOS（児童書 5）	2017 年 8 月
おしりたんたい　あやうし　たんていじむしょ（児童書 6）	2018 年 3 月
おしりたんてい　みはらしそうの　かいじけん（児童書 7）	2018 年 8 月
おしりたんてい　プップッ　ゆきやまの　しろい　かいぶつ⁉（絵本 7）	2018 年 12 月
おしりたんてい　カレーなる　じけん（児童書 8）	2018 年 12 月
おしりたんてい　かいとうと　ねらわれた　はなよめ（児童書 9）	2019 年 4 月
おしりたんてい　ラッキーキャットは　だれのてに！（児童書 10）	2019 年 8 月
おしりたんてい　おしりたんていの　こい⁉（児童書 11）	2020 年 10 月

場する悪党たち（窃盗犯が大多数）は悉く「おしりたんてい」の口（正しくは，尻の形の顔面の口にあたる部分）から放たれる屁によって，まさに苦杯を喫する[22]。その場面の描画のみ，絵本も児童書もテレビアニメ作品も総じて“劇画”風の力強い画風となり，その攻撃の凄まじさと受け手のダメージが直截的に伝わってくる。やなせたかしの「アンパンマン」に通底する世界観であると言えるだろう。

構成面では他にも，名探偵が事件を解決し依頼を完遂する“推理小説要素”が挙げられる。児童図書でありながら，何気ない場面に散りばめられた小さい伏線が，探偵の推理披露で見事に回収される展開は大人読者も感嘆するに違いない。そして，構成面での一番の特徴が，作中に迷路やパズル，三択クイズ，群衆の中の人物探しといった“クイズ要素”である。犯人捜しの捜査中という物語（ストーリー）の本筋から逸れることなく配置されており，パズルに取り組む間に話が中断しても，解答後にはすぐに続きの場面へと繋がることが可能で，齟齬や違和を感じさせない。ただし，おしり型のマーク探しだけは物語の完結後にページを遡って探す必要に迫られる難

問である。

NHK Eテレのテレビアニメーション作品は，現時点で第86話まで制作され放映されている。第1話「ププッとかいけつ！おしりたんていとうじょう！」（2018年5月18日初放送）は，絵本の第1作『おしりたんてい』を助手の子犬のキャラクター造形を除き，ほぼそのまま本の世界を映像化している。迷路も人探しクイズもおしり型探しも，絵本の記載にほぼ全て合致している。こうしたメディアミックスによる展開も「おしりたんてい」の特徴であると言えるだろう。「ハリーポッター」シリーズもそうであったが，絵本や児童文学が実写やアニメーションなどで動画映像化され，それが評判を得ると，以降の世代の子どもたちが本で読まなくなる傾向がある。「おしりたんてい」の絵本や児童書も，2020年10月を最後に後継の出版は行われていない。

しかしながら，今なお書店で平積みにされ図書館の貸し出しも盛んであるのは，それが「本」だからである。本であれば，テレビアニメにない「制限されずにじっくり迷路や人探しをする時間」が認められる。一人で謎解きしてもよいし，複数の友だちとわいわい一緒に事件の手掛かりを探すこともできる。テレビアニメを視聴した子どもが，本で再挑戦し答えを確認しようとする，“逆流”現象が発生しているのかもしれない。

「おしりたんてい」の絵本や児童書は，書籍自体が仲介者（アニマドール）役を担いさまざまな“作戦”を展開する。子ども読者は1冊の本から必要な情報をくまなく探すことが求められ，発見や解決の度に達成感を蓄積し，読後に「一件落着」の爽快感を得る。こうして1冊を読み切る楽しい読書体験は，子ども自ら新たな「本」を手に取りたいとする意欲に繋がるだろう。「おしりたんてい」シリーズは，サルトが提唱する「読書へのアニマシオン」の作戦を過分に含むテキストであるが，その主たる読書のあり方が，集団ではなく個の読書である点で興味深い。

5　まとめと課題

> 読書は思考活動の素地をつくるものだ。もちろん読書をしなくても考えることはできないわけではない。しかしそれは，四股を踏まない者が取る相撲のように，レベルの低いままに止まる。本格的な思考力は，すべての活動の基礎だ[23]。

読書指導の観点から，「おしりたんてい」人気について考察した。子どもが自身の興味や関心から「本」を手にしてページをめくる契機になっている点で，優れたテキスト群であると言えるだろう。与えられ促される一方の読書活動では，いくら継続しても根本的な読書離れを解決することはできないだろう。齋藤（2002）が上記で述べるように，老若男女を問わず読書は人として生きる上で必要な“思考”の基盤を育む営為である。だからこそ我々大人は，子どもが自ら主体的

に読書に勤しむ方策を検討し提示していかなければならない。そのためには，今日の子どもが実際に楽しく読んでいる作品に触れ探究することが肝要だ。大人の児童書への探究は，サルトが「読書へのアニマシオン」で示した主張とも合致する。

「おしりたんてい」への分析として，本稿の内容では不十分である。作中の動物世界の様相や登場キャラクターの造形，探偵小説ならではの起伏ある物語展開など，テキスト分析を通して考察すべき論点を残しているが，紙幅も尽きているので今後の課題として別稿にて表したい。

《注》

（1） 読売新聞（東京朝刊）2020 年 1 月 31 日
　記事には以下の記述がある。〈出版科学研究所によると，雑誌や文庫などの不振で，紙の出版物の落ち込みは止まらない。（中略）出版市場がピークだった 1996 年の 6 割弱の水準だ。この苦境下で，児童書の動きは目をひく。同研究所によると，2019 年の児童書の新刊の推定発行部数は 2520 万部で，前年比 103.2％と好調だった。また少子化のため，13 年から 18 年の間で 0～14 歳の人口は約 97 万人減ったが，18 年の児童書の推定販売額は 875 億円となり，同じ期間で 105 億円伸びている。〉
（2） 読売新聞（東京朝刊）2022 年 11 月 18 日
（3） 滑川道夫『読解読書指導論』東京堂出版，1970 年，p. 111
（4） 同上，p. 90
（5） 同上，p. 109
（6） 同上，pp. 13-138
（7） 38 カ国が加盟（2023 年 9 月 20 日現在）
（8） 文部科学省・国立教育政策研究所「OECD　生徒の学習到達度調査 2018 年調査（PISA2018）のポイント」2019 年 12 月 3 日，検索閲覧日：2022 年 12 月 14 日
（9） 拙稿「「児童文化」の授業内容と教授法の探究 ── 保育者養成校の学生を対象とした幼児期の遊び経験と児童文学の知識や読書に関する調査から ──」川口短大紀要第 36 号，2022 年，pp. 169-177
（10） 齋藤孝『読書力』岩波書店，2002 年
（11） M・M・サルト（著）宇野和美（訳）カルメン・オンドサバル，新田惠子（監修）『読書へのアニマシオン　75 の作戦』柏書房，2001 年（※原著は 1998 年に ©）
　サルトは，主張の前提として「教授法」と「教育」の区分を明確にしている。「教授法」は，上から下へと教えを導くことであり，「教育」は子どもの力を引き出すことである，と。そして「読書へのアニマシオン」は，「教育」プロセスの一様であると明言する。
（12） 同上，p. 22
（13） 同上，p. 23
（14） 同上，p. 24
（15） 有元秀文『PISA に対応できる「国際的な読解力」を育てる新しい読書教育の方法 ── アニマシオンからブッククラブへ ──』少年写真新聞社，2009 年
（16） 岩辺泰吏＋まなび探偵団アニマシオンクラブ『一冊の本が宝島　はじめてのアニマシオン』柏書房，2003 年，p. 9
（17） 有元秀文『子どもが必ず本好きになる 16 の方法　実践アニマシオン』合同出版，2006 年，p. 4
（18） 同上，p. 5
（19） 注(10)に同じ，p. 37

齋藤の言葉の本意は次の引用から明らかである。〈読書の歯や顎は，鍛えられるべき成長期に鍛えられておくことで，一生の宝になる。児童文学は，いわば離乳食である。もちろん質の高い児童文学はある。質の問題ではなく，読みやすさという点で，児童書は離乳食だ。この離乳食としての児童文学は必要なものだ。そこで吸収される栄養は，豊富なものである。しかし，ここの段階をいくら繰り返していても，必ずしも歯や顎が強くなるとは限らない。離乳食止まりという人も出てきかねない。〉pp. 37-38

ちなみに齋藤は，アニメをスープ，マンガをスナック菓子に喩えている。

(20)　田中陽子「奥がしりたい！　おしりたんてい　著者トロル氏（田中陽子氏）インタヴュー」(「ハヤカワミステリマガジン」63 巻 4 号，早川書店，2018 年 7 月，pp. 9-14）p. 11

(21)　髙林淳一「見た目以上に面白い！　「おしりたんてい」シリーズ　トロルさく・え」(「こどもの本」44 巻 9 号，日本児童図書出版協会，2018 年 9 月，p. 58）p. 58

(22)　例外もあり，変装の達人である少女怪盗の「かいとう B（ベリー)」は，おしりたんていの“口撃”を，日傘を盾に躱している。(『おしりたんてい　おしりたんていの　こい⁉』)

(23)　注(10)に同じ，p. 7

参考文献

滑川道夫『現代の読書指導』明治図書出版，1976 年

（提出日：2023 年 9 月 20 日）